

旧館林市庁舎（館林市市民センターについて）

旧館林市庁舎は1963年に建築され、1981年までは庁舎として利用され、1982年4月からは館林市市民センターとして公民館や教育施設などに利用されています。

設計は菊竹清訓で、戦後日本を代表する建築家のひとりです。菊竹清訓の設計による市庁舎のデザインだけでなく、グラフィックデザイナーの田中一光のサインにも注目が集められました。

日本に現存する数少ないメタボリズム建築として有名なこの建物を一目見ようと、全国各地から見学者が訪れています。

建物の特徴について

4本の巨大なコア柱と上階の四方に張り出した全面ガラス張りの部屋が特徴的です。

柱によって支えられたボイドスラブの床が間をぬって四方に伸びようとする構成は開放的で将来可変な自由な執務空間を実現しています。

これらの特徴は、メタボリズム建築の「生物が新陳代謝をして成長していくように、建築や都市も変化していくようにデザインされるべき」という思想が現れた建物と言えます。

きくたけ きよのり

菊竹清訓（1928-2011）

建築家。福岡県久留米市生まれ。

「スカイハウス（1958年竣工）」、「出雲大社庁の舎（1963年竣工）」といった代表作品を手掛けています。

1960年には川添登、黒川紀章らとともに、「メタボリズム」を提唱し、「世界デザイン会議」に参加しました。

「日本におけるモダン・ムーブメントの建築280選」

（2022年選定 DOCOMOMO Japan）

※DOCOMOMOは、モダン・ムーブメント（近代運動）の推進に寄与した建築の歴史的、文化的重要性を訴え、その記録と現存建物の保存に関する活動を展開する国際的学術組織です。

担当：館林市役所都市計画課都市再生推進係

TEL：0276-47-5150（直通） ※平日8：30～17：15

MAIL：toshikei@city.tatebayashi.gunma.jp

※市HP（トライアルサウンディング事業・見学申込み）は、右記QRコードから→



<https://www.city.tatebayashi.gunma.jp/6015/reffesumou-tour>

旧館林市庁舎～メタボリズム建築～ 建物案内図



○基本データ○

【所在地】館林市仲町14-1

【設計】菊竹清訓建築設計事務所

【構造】早大松井源吾構造研究室

【設備】早大井上宇市設備研究室

【色彩計画】田中一光

【施工会社】大成建設株式会社

【施工期間】1962年7月（着工）～1963年6月（竣工）

【建物構造】鉄筋コンクリート造 地下1階地上5階建て

【建築面積】668.42㎡

【延床面積】3,469.22㎡



① 1階スペース

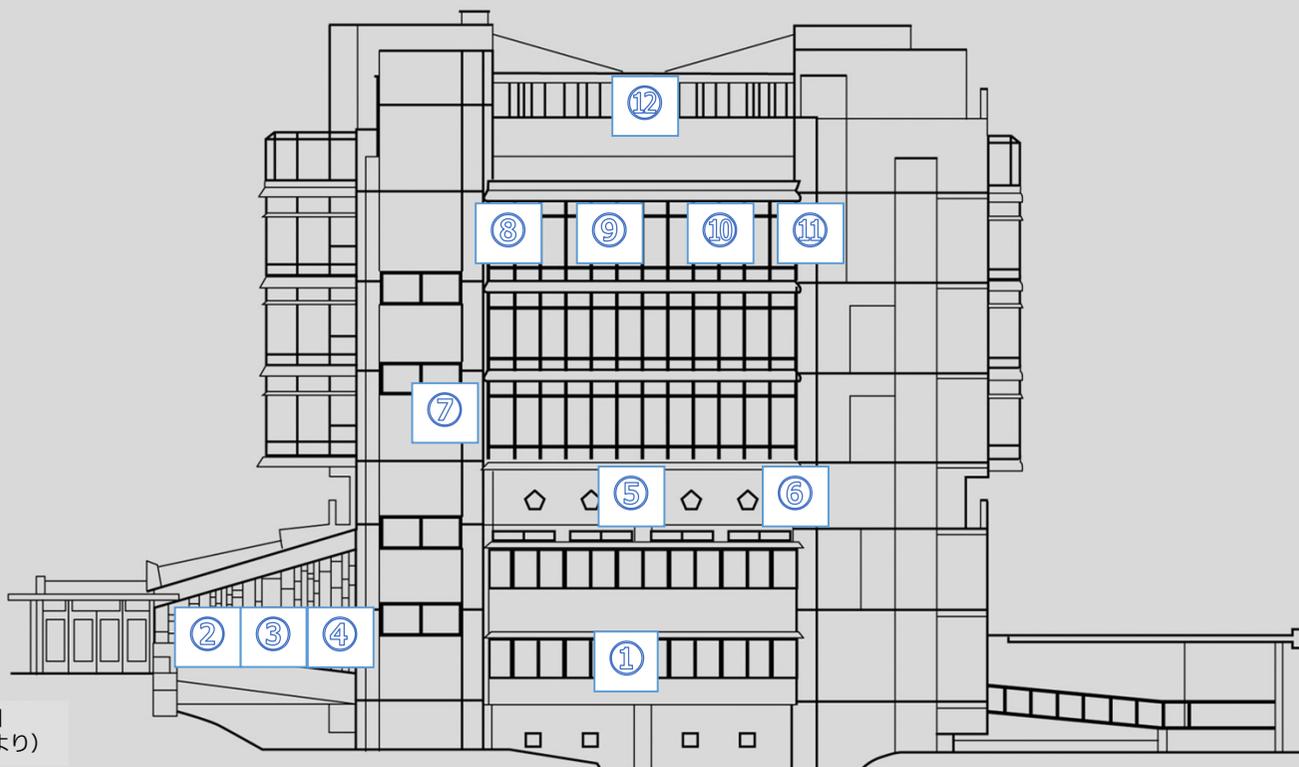
② アプローチ

③ サッシ

④ DOCOMOMO Japan選定証

⑤ 中3階

⑥ 5角形の窓



建物案内図

⑦ 階段防火扉

⑧ 間仕切り

⑨ ガラス張りの部屋

⑩ 議場扉の取手

⑪ 5階講堂

⑫ 屋上

